

令和8年度 京都府立綾部高等学校東分校（定時制） 学校経営計画（スクールマネジメントプラン） （計画段階）

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>教育目標 ①生きる力となる学力を養う ②主体的に行動する力を養う ③生命を大切にし豊かな心とたくましい体力を養う</p> <p>校是 探真究理</p> <p>① 生きる力となる学力を養う ・生徒一人ひとりの学習状況に応じた個別最適な指導による基礎学力の定着 ・ICTを活用した学習支援と情報活用能力の育成 ・探究的な学びやキャリア教育を通じた社会とつながる力の育成 ・働きながら学ぶ生徒を支える柔軟で実効性のある学習支援体制の構築</p> <p>② 主体的に行動する力を養う ・生徒会活動やボランティア活動を通じた主体性・協働性の育成 ・将来を見据えた目標設定と自己実現に向けた行動力の育成 ・働くことを通じた実践的な学びによる勤労観・職業観の確立 ・対話を重視した教育活動による社会性と責任感の育成</p> <p>③ 生命を大切にし豊かな心とたくましい体力を養う ・一人ひとりを尊重する人権教育の推進と安心できる学習環境の整備 ・多様な背景を持つ生徒同士が認め合う共生的な人間関係の育成 ・心身の健康に配慮した教育活動と生活支援の充実 ・学校・家庭・地域・関係機関が連携した継続的支援体制の構築</p>		<p><成果> ◇京都府教育委員会の「子どもの知的好奇心をくすぐる事業」「高校生伝統文化体験」などの諸事業や外部講師を活用した「理科実験学習」などを複数回実施した。また、日本語を母語としない生徒の入学を見据えての系統的な「補習」や「ふりかえり」「漢字」学習実施、iPadなどのICT機器なども活用しながら基礎学力の一層の定着を図った。</p> <p>◇教職員連絡会での教職員間の情報交流や日常での意思疎通の機会を設けることができた。また、スクールカウンセラー、まなび生活アドバイザーなどとの連携を密にすることができた。とりわけ、スクールカウンセラーによる4月当初からの「全員面談」を実施したことは、各生徒の特性の理解の深化や必要な手立てを考える一助となり、この成果をふまえた教職員研修を実施し、実践的指導力の強化を図ることができた。</p> <p>◇保護者との連携を図り、該当生徒の各々の課題や教育的ニーズを共有するとともに、担当が必要に応じて保護者に対し、本校の教育活動に対する支援や協力を依頼した。また、登校時の挨拶を励行し、心に触れる声かけや教育相談などを行い、長期欠席の傾向がある生徒の欠席数減少につなげた。</p> <p>◇生徒会活動の一層の活性化を図るため、生徒会役員が主体的に企画・運営し、成就感を持つ環境づくりに努めた。結果として、生徒一人ひとりが主体的に行動する場面が見られ、自己肯定感や有用感を醸成し、生徒会執行部が主体的に体育祭の種目を立案したり文化祭等の生徒会企画などに創意工夫が見られた。</p> <p>◇4年生3名に対して丁寧な進路指導を行い、自らが希望する企業への内定を果たした。また、その就職内定に向けて努力したことを下級生に適切に伝えることができた。</p> <p>◆定時制の魅力適切に発信し、中学生などの志望校選択に充分に資する一助となるように、中学校教員に向けた「学校紹介」の機能の充実、相談窓口の強化、就学相談員との連携を密にする必要がある。</p> <p>◆今後も様々な特性を持つ生徒の入学も予想される。授業改善を一層進め、生徒の学びの意欲をさらに高めることはもとより、自己の役割を自覚し「自己肯定感」を高め、地域社会に貢献することができるように、しっかりと学力を定着させる必要がある。</p>	<p>■重点1 組織・運営の充実(チームとして機能する学校づくり) ・教職員の強みを生かした協働体制と課程・キャンパス・分掌・教科を越えた組織的教育活動の推進 ・ICT活用による迅速な情報共有と業務効率化及び働き方改革と教育の質の向上の両立 ・学校・家庭・地域・関係機関との連携強化による生徒一人ひとりを支える支援体制の構築</p> <p>■重点2 学びの充実とキャリア教育の推進(生きる力となる学力の育成) ・各課程・学科・コースの特色を生かした成長実感を伴う学力向上プログラムの充実 ・探究的な学びとICT活用による課題発見・解決力・思考力・判断力・表現力の育成 ・生徒一人ひとりの可能性と志に寄り添った主体的進路選択を支えるキャリア教育の推進</p> <p>■重点3 生徒指導の充実(人権を基盤とした成長支援) ・高い人権意識に基づく多様な背景を持つ生徒一人ひとりへの理解と尊重の徹底 ・安心・安全な学校環境の整備と教育相談・支援体制の充実による心身の成長支援 ・基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成による社会で自立して生きる力の育成</p> <p>■重点4 特別活動の充実(主体性・協働性の育成) ・学校行事や生徒会活動を通じた主体性と協働性及び課題解決力の育成 ・スポーツ・文化・国際理解・地域連携活動を通じた挑戦する姿勢と継続力の育成 ・ボランティア活動や地域貢献活動の推進による社会参画意識と自己肯定感の向上</p> <p>■重点5 広報・生徒募集の充実(魅力ある学校づくりと発信) ・教育活動や生徒の成長過程と成果の積極的発信による学校の魅力の効果的な発信 ・中学校や地域との連携強化による教育内容及び特色への理解の深化 ・学校説明会等における体験活動や個別相談の充実による一人ひとりに寄り添った生徒募集活動の展開</p>	
評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
リム組 と織 し・ て運 機 能 の 充 実 学 校 へ づ ち く	・教職員の強みを活かした協働体制と課程間、キャンパス間、分掌、教科を越えた組織的教育活動の推進	(管理) 定時制の教職員の特性や強みを活かし、学校運営体制の強化を図る。		
		(教務) 入学者選抜や協働する行事において、連携、協働し、効率よく運営する。		
	・ICT活用による迅速な情報共有と業務効率化及び働き方改革と教育の質の向上の両立	(管理) 協働性を意識し、teamsによる職員連絡会を改善して生徒と向き合う時間を捻出する。		
		(教務) iPadを使うことによって、自分で学ぶ機会を持ち、効率の良い学習体制を確立させる。		
・学校・家庭・地域・関係機関との連携強化による生徒一人ひとりを支える支援体制の構築	(管理) 各分掌との協働体制を進め、地域の関係機関との適切な連携を図る。			
	(教務) 地域の関係機関と連携を取り、支援体制を確立させる。			

<p>学びの充実とキャリア教育の推進 (生きる力となる学力の育成)</p>	<p>・各課程、学科、コースの特色を活かした成長実感に伴う学力向上プログラムの充実</p>	(教務) 丁寧に授業を行い、iPadを使って授業内容を隅々まで理解させ、基礎学力を高めさせる。			
		(進路) 4年生による進路報告会を実施し、在校生の進路意識向上を図る。			
		(1年) 少人数であることを生かし、学力の定着を図る。			
		(2年) 少人数クラスの特徴を生かし、他生徒との距離に配慮した座席配置とする。			
		(3年) 少人数クラスの特徴を生かし、他生徒との距離に配慮した座席配置とする。			
	<p>・探究的な学びとICT活用による課題発見・解決力、思考力・判断力・表現力の育成</p>	(教務) 様々な学習から、気になるものを見つけさせるために、多様な学習に取り組ませる。			
		(進路) 進路分野別ガイダンスなどを通じて、進路決定に向けた能力向上を図る。			
		(1年) 課題を見つけるために、生徒自身の自己理解を進める。			
		(2年) 生徒が主体的にホームルーム行事などの諸取組の企画運営を行う。			
		(3年) 定期的に面談を実施し、課題を発見させて課題解決のための指導をする。			
	<p>・生徒一人ひとりの可能性と志に寄り添った主体的進路選択を支えるキャリア教育の推進</p>	(教務) 好きなこと、気になることを見つけて、掘り下げていく機会を与える。			
		(進路) 企業・上級学校見学会を通し、個々の進路選択決定を促す。			
		(1年) 自身の将来について考える機会を与えるために、月に1回の面談を行う。			
		(2年) 進学希望の生徒に関しては、別途進学補充を実施する。			
		(3年) 定期的に面談を実施し、課題を発見させて課題解決のための指導をする。			
<p>生徒指導の充実(人権を基盤とした成長支援)</p>	<p>・高い人権意識に基づく多様な背景を持つ生徒一人ひとりへの理解と尊重の徹底</p>	(生徒) 外部機関との連携を密にし、生徒一人ひとりに応じた支援体制を整備する。			
		(保健) SCカウンセリングを実施しコミュニケーションの幅を広げる。			
		(1年) 他者への関心を高めるために、互いのことを知る機会を設ける。			
		(2年) 他者への関心を高めるため、互いを知る機会を設ける。			
		(3年) 挨拶をはじめとする毎日の対話を通して、コミュニケーション力を育む。			
	<p>・安心・安全な学校環境の整備と教育相談・支援体制の充実による心身の成長支援</p>	(4年) 生徒会活動などを通じて、コミュニケーション力を育む。			
		(生徒) 生徒の心理的安全性を確保するために、生徒の実情に応じた配慮を行う。			
		(保健) 生徒一人一人に応じた適切な支援ができるよう、日々の情報共有や実態把握に努める。			
		(人権) 国際理解をテーマに人権学習を実施する。			
		(1年) 生徒の心理的安全性を確保するために、生徒の実情に応じた配慮を行う。			
		(2年) 安心して通える教室にするために、個人面談を月1回実施する。			
		(3年) 校則を守る大切さを普段の学校生活から理解させ、自律を促す。			
	(4年) 他者を尊重するクラスづくりをする。				

	・ 基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成による社会で自立して生きる力の育成	<p>(生徒) 生徒が主体的にホームルーム活動を運用し、学校行事等の活性化を図る。</p> <p>(保健) 心身共に健康な学校生活を送れるよう、自己管理能力の育成を図る。</p> <p>(1年) 生徒が主体となってホームルーム活動などを実施する。</p> <p>(2年) 定期的に、生徒の就寝・起床時間や喫食状況を口頭にて確認する。</p> <p>(3年) 心身共に健康な学校生活を送れるよう、自己管理能力の育成を図る。</p> <p>(4年) 授業規律を理解させ、適切な社会性を育む。</p>			
特別活動の充実 (主体性・協働性の育成)	・ 学校行事や生徒会活動を通じた主体性と協働性及び課題解決力の育成	(生徒) 生徒の主体的な生徒会活動を実施し「魅力ある学校」の一助とする。			
		(1年) 学校行事への主体的な参加を促すため、議論ができる時間をホームルームで確保する。			
		(2年) 放課後クラブに積極的に参加するよう呼びかける。			
		(4年) 生徒の成長の機会ととらえ、学校行事への参加を促していく。			
	・ スポーツ・文化・国際理解・地域連携活動を通じた挑戦する姿勢と継続力の育成	(生徒) 各種取組の案内を積極的に生徒に提示する。			
		(1年) 学外からの資料の提示に加え、生徒への周知を徹底する。			
		(4年) 地域に愛される生徒や集団の育成のために、地域行事への参画を促す。			
	・ ボランティア活動や地域貢献活動の推進による社会参画意識と自己肯定感の向上	(生徒) 地元企業や団体と協力した取組を進め、自己と地域とのつながりを認識させる。			
		(1年) 学外からの資料の提示に加え、生徒への周知を徹底する。			
		(2年) 地域に愛される生徒や集団の育成のために、地域行事への参画を促す。			
		(4年) 地域とつながるために、地域の人的・物的資源を活用した授業を取り入れる。			
	信(広報) 魅力ある生徒募集づくりと発信	・ 教育活動や生徒の成長過程と成果の積極的発信による学校の魅力の効果的な発信	(管理) 地元企業、各種団体などと連携した取組等の周知を図る。		
(教務) 生徒が興味を持てる学校行事を組み込み、適切に広報活動を行う。					
・ 中学校や地域との連携強化による教育内容及び特色への理解の深化		(管理) 『スクールガイド』やホームページの充実を図り、定時制課程の魅力発信に努める。			
		(教務) 中学校教諭と連携を密にして、定時制の特色の理解を深めるように心掛ける。			
・ 学校説明会等における体験活動や個別相談の充実による一人ひとりに寄り添った生徒募集活動の展開		(管理) 『スクールガイド』やホームページの充実などで定時制課程の魅力発信に努める。			
		(教務) 学校見学会を実施し、見学の際に、丁寧に説明を行う。			